

大分市歴史資料館

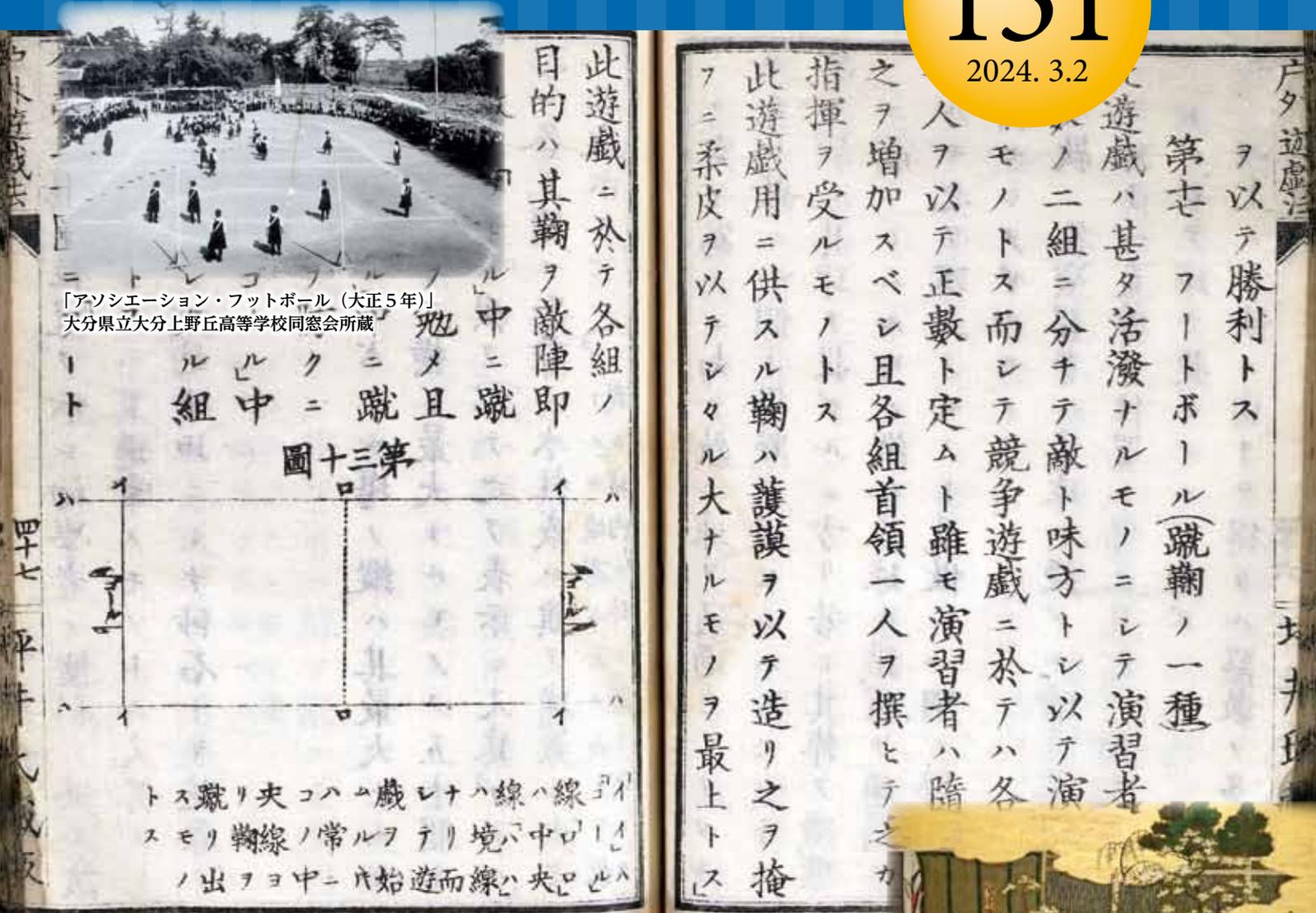
OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース

vol.

131

2024. 3. 2



「アソシエーション・フットボール（大正5年）」
大分県立大分上野丘高等学校同窓会所蔵

「戸外遊戯法一名戸外運動法」個人蔵

令和6年春季テーマ展示

大分と蹴球

しゅう きゅう



狩野派「源氏物語図 若菜上」(写真パネル)
原本：個人蔵

会期

令和6年 3月2日(土)～5月26日(日)

後援

株式会社大分フットボールクラブ、一般社団法人大分県サッカー協会、大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、J:COM 大分ケーブルテレコム、エフエム大分、月刊・シティ情報おおいた

大分と蹴鞠

日本の伝統文化「蹴鞠」^{けまり}と世界中で愛される「サッカー」。ともに足を使う2つの球技は歩んだ歴史こそ違うものの、現代でも人々に親しまれています。

戦国時代、大分では大友氏が蹴鞠を行い、21代大友宗麟^{そうりん}はその名手として知られていました。また、江戸時代には杵築や日田で蹴鞠が行われ、明治時代以後も天皇によって蹴鞠保存会が設立されるなど、蹴鞠は残り続けています。

一方、1873年にイギリスが伝えて始まった日本のサッカーは、学生スポーツとして広まり、後にプロ化が進んで屈指の人気を誇るスポーツになりました。大分でも、1994年にチーム名「大分トリニティ」(後の「大分トリニータ」)として大分フットボールクラブが設立されました。

今回の展示では、蹴鞠とサッカーがどのように大分で受容され発展してきたかを紐解いていきます。

第一章

蹴鞠の文化 と大分

蹴鞠は古来より伝わる伝統文化です。約1400年前、大化の改新を行った中大兄皇子と中臣鎌足^{たしな}の出会いが蹴鞠であったことが知られています。平安時代には、貴族の嗜みのひとつとなり、その後は武士に必須の芸事となりました。

豊後を治めた大友氏では、16世紀に大友義長^{よしなが}が家訓として蹴鞠を嗜むことを推奨し、その孫の大友宗麟は、蹴鞠の名手として有名です。また江戸時代には、杵築藩主が蹴鞠を行っていました。

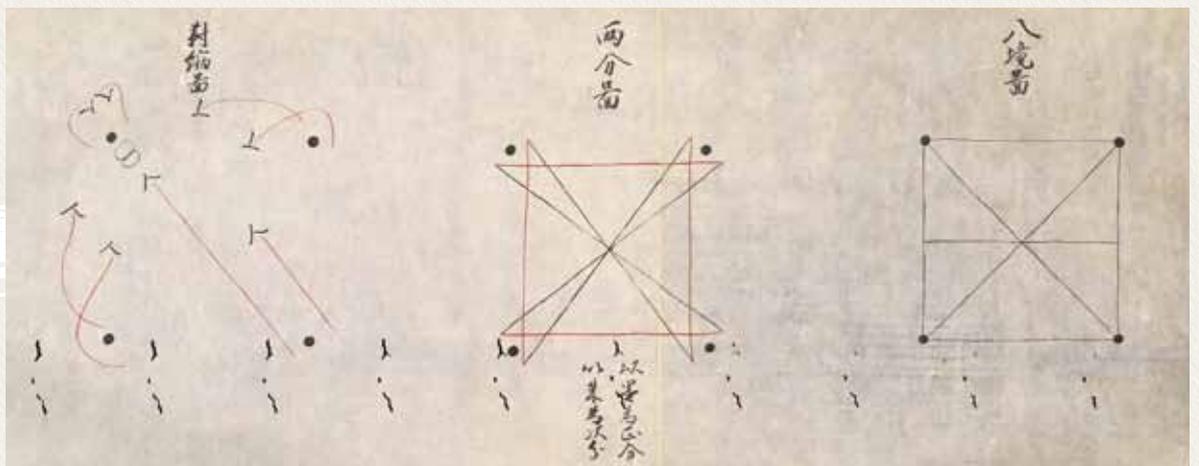
明治時代以降に衰退していくものの、明治天皇が京都に設立した蹴鞠保存会^{しらみね}や白峯神宮^{しもがも}、下鴨神社^{ことひらぐう}、香川の金刀比羅宮などが蹴鞠の技術を今に伝えています。



「土佐長隆/中大兄蹴鞠図」(写真パネル)
原本：東京国立博物館所蔵
出典：ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)



「鞠」個人蔵



「土井家文書 蹴鞠一卷」杵築市立図書館所蔵

第二章

日本サッカーの歩み と大分

明治時代になると、サッカーが日本に伝わりました。1873年、イギリス海軍の将兵が日本人にサッカーを教えたのがその起源とされています。1885年には様々なスポーツのルールが書かれた「^{こがいゆうぎほういちめいこがいうんどうほう}戸外遊戯法一名戸外運動法」が刊行され、その中にはサッカーもありました。大分では、1916年に大分県立大分第一高等女学校でサッカーが行われていたことが分かっています。

太平洋戦争後は、オリンピックや漫画「キャプテン翼」の影響でサッカー人気が高まります。その中で、大分市立明野中学校サッカー部は1985年に県勢唯一の全国優勝を成し遂げます。明野中学校からは、^{ながいひでき みうらあつひろ}永井秀樹や三浦淳宏など後に日本代表へ選出される選手が輩出されました。その後、1993年に初のプロサッカーリーグJリーグが開幕しました。2002年には、サッカーワールドカップが日本と韓国で開催され、サッカー人気は不動のものとなりました。



「ワールドカップ大分宣言」
メモリアルギャラリー所蔵



坪井玄道「戸外遊戯法一名戸外運動法」(1885年)
個人蔵



日名子実三「日本蹴球協会章」(1931年)
大分県立美術館所蔵

年表

- | | | | |
|------|---|------|---------------------------------|
| 1863 | イングランドサッカー協会設立 | 1946 | 終戦後初のサッカーの試合が開催 |
| 1873 | 英国海軍将兵が日本人にサッカーを教える（日本サッカーの起源） | 1949 | 大分県蹴球協会（のちの大分県サッカー協会）設立 |
| 1885 | 初の日本語によるサッカーの解説書「戸外遊戯法一名戸外運動法」を坪井玄道らが刊行 | 1954 | ワールドカップ予選に初参加 監督は竹腰重丸（白杵市出身） |
| 1904 | 国際サッカー連盟（FIFA）設立 | 1968 | メキシコシティーオリンピックで男子日本代表が銅メダルを獲得 |
| 1908 | オリンピックの正式種目になる | 1985 | 大分市立明野中学校サッカー部が全国中学校体育大会で優勝 |
| 1916 | 大分県立大分第一高等女学校の秋季大運動会の一種目としてアソシエーション・フットボールが行われる | 1993 | Jリーグ開幕 |
| 1919 | イングランドサッカー協会よりシルバーカップが寄贈される | 1994 | 大分フットボールクラブ創設 |
| 1921 | 大日本蹴球協会（現在の日本サッカー協会）設立 | 1998 | サッカーワールドカップフランス大会に出場 |
| 1929 | 競技名を「蹴球」に統一 | 2002 | サッカーワールドカップ日韓大会が開催 |
| 1931 | 大日本蹴球協会旗章の制定（デザインの図案化を白杵市出身の彫刻家・日名子実三が担当） | 2008 | 大分トリニータがヤマザキナビスコカップを制覇 |
| 1936 | サッカー男子日本代表がベルリンオリンピックに出場 強豪のスウェーデン代表を破りベスト8に進出（ベルリンの奇跡） | 2011 | サッカー女子日本代表がサッカーワールドカップドイツ大会で優勝 |
| 1945 | シルバーカップを供出 | 2021 | 日本サッカー協会設立100周年 大分トリニータが天皇杯で準優勝 |
| | | 2022 | 国民体育大会サッカー成年男子の部で大分県が優勝 |
| | | 2024 | 大分県サッカー協会設立75周年 大分トリニータ設立30周年 |

設立30周年 又大分トリニータ



Jリーグの開幕により日本のサッカー熱が高まる中、1994年にチーム名「大分トリニティ」として大分フットボールクラブが設立されました。その後、2年でJFLに昇格、1999年にはチーム名を「大分トリニータ」に改称するとともにJ2に加入しました。

2003年にJ1へ昇格した「大分トリニータ」は、2008年にはヤマザキナビスコカップ優勝を果たし、九州で初めてJリーグ3大タイトルを獲得したチームとなりました。決して経済規模が大きくない地方クラブが躍

進を遂げるその姿は、多くのサッカーファンに希望を与えました。また、「育成の大分」としても有名で、数多くの日本代表選手を輩出しています。

「大分トリニータ」は多くの声援を背に、これからも闘い続けます。



「第19回全国地域リーグ決勝大会準優勝トロフィー」
クラブトリニータ所蔵



「2008 Jリーグヤマザキナビスコカップ優勝トロフィー」
株式会社大分フットボールクラブ所蔵



「2012 J1昇格プレーオフ優勝盾」
株式会社大分フットボールクラブ所蔵



「2024年大分トリニータ選手・スタッフ集合写真」
©OITA F.C.

発行 **大分市歴史資料館** 〒870-0864 大分市大字国分960-1 TEL:097-549-0880 FAX:097-549-5766



【開館時間】入館は16:30まで 【休館日】※ただし祝日の場合は開館 月曜日 (第1月曜を除く)、第1火曜日 【年末年始の休館日】12/28-1/4 【観覧料】※団体は20名以上 大人210円(団体150円) 高校生100円(団体50円) 中学生以下無料

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者1名は無料。◎入館時に受付で手帳を提示してください。
※都合により、予定を変更する場合がございます。

発行日:令和6年3月2日